



◀食事は気分転換と買い物を兼ねた集いとなっています。

おしゃべりしながら食事会

地区内の高齢者を招いた「え〜ひだ逢^{あいあい}愛お食事会」が6月18日、東比田交流センターで開催されました。ご近所にお茶を飲みに行く機会が減り、自宅にこもりがちな高齢者に月に1回集まっていただけ、食事やおしゃべりをしながら楽しいひと時を過ごしてもらおうと地元住民らが毎月開催。自力で来ることができない人には送迎も行っています。

この日は23人が参加。ボランティアスタッフが手作りしたグリーンピースご飯や地元産山菜の煮しめなどをおいしそうに食べていました。また、食事前後には同センターに設けられたミニ店舗で生活必需品や食料品などの買い物を楽しみました。



マイ運動プログラム

6月14日、山佐交流センターで島根県立大学看護栄養学部看護学科の教員と学生が、地域の高齢者を対象にした身体機能の測定を行いました。同学科は、中山間地域に出かけ介護教室に出かけられない人などのために出張測定を行っており、その一環で開催したものです。

測定会には24人の高齢者が参加。学生に骨密度や歩行速度などを計測してもらっていました。測定後は、専用のソフトウェアで結果を反映した個別の

◀歩幅による運動機能を測定する参加者。

たっぴくす



まちの話題や出来事をご紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック(FB)」で公開しています。



島田こども園でのドジョウのつかみ取り。ドジョウが放されると子どもたちはプールに入るのが待ち遠しい様子で歓声をあげていました。(7月3日)

今月の一枚





◀名前の由来は交流センターや
こども園などの頭文字から。

カフェからはじまる交流

地域の皆さんが交流できる場をつくろうと6月18日、認定こども園赤屋で「ろここカフェ」が開かれました。さまざまな業種や高齢者など、お茶を飲みながら気軽におしゃべりをしてもらうことを目的としています。

一回目となったこの日は、園の遊戯室をカフェに見立て、園児たちが接客。手づくりのケーキや飲み物を訪れた人に提供していました。交流センターの増田由美子主事は「このような場を設けることによって住民の横の連携を深め、新しい動きができることを期待しています」と話していました。

特殊詐欺被害防止のために

安全な消費生活を守ろうと「第11回より良い消費生活のための集い」が6月23日に安来節演芸館で行われました。

集会では、安来市消費者団体連絡会の会員で結成される「おしゃべり劇団」が振り込め詐欺を題材とした寸劇を披露。劇でのやりとりは安来弁が使われ、楽しみながら詐欺の手口を学べる内容となっていました。また、消費者問題に詳しい柴山慶太弁護士による講演も行われ、詐欺に遭うと犯人が捕まってもお金が返ってくる可能性は低いことを説明。特殊詐欺被害防止の大切さを訴えました。



◀寸劇を披露する「おしゃべり劇団」の皆さん。



▲完成した作品を見て楽しむ様子。

I Tを楽しく学ぼう

I Tの技術を学び、その楽しさを知ってもらおうと6月29日、「第2回情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」が同校で開催されました。

この日は、プログラミング講座とタイピング講座が行われ、このうち、小学生を対象にしたプログラミング講座では簡単なプログラミングを使い、アニメーションを制作。参加した子どもたちはタブレットを使ってキャラクターを動かしたり、せりふをつけたりして自分なりの物語を作りました。

川口哲平くんは「自分の考えたとおりにキャラクターを動かして楽しかった」と話していました。

おいしく育てやすぎどじょう

やすぎどじょうセンターがふ化させたドジョウの稚魚を6月5日・6日に市内の養殖農家へ引き渡しました。今年、引き渡された稚魚は約307万匹。養殖農家は引き取った後、自分の養殖池などに放して約3カ月間、育成して出荷します。やすぎどじょう生産組合は、今年度の目標生産量を4.5トンとし、前年度より多い生産を目指しています。

同組合の渡邊健次組合長は「今年もこれだけの稚魚を放養できることは、技術が安定してきている証拠。この調子で出荷量も伸ばしていきたい」と話していました。



▲ドジョウの稚魚を袋に移す組合員。